

(天童) 第25回高校生ロボット相撲全国大会で、山形電波工業高(天童市、高橋健二校長)の3年菅原樹さんがラジコン型の部で準優勝に輝いた。同校勢の全国準優勝はおととしの自立型に次ぎ最高タイ。菅原さん自身3回目にして初の表彰台で「指導してくれた先生、支援してくれた親に結果で返せたかな」と語る。

菅原さん(山形電波工高3年)が準V



高校生ロボット相撲全国大会で準優勝に輝いた菅原樹さん

II 天童市・山形電波工業高

ロボット相撲全国大会 ラジコン型の部

大会は、埼玉県のものづくり大学で11月26日に開催され、コンピュータープログラムを内蔵した自立型、リモート操縦のラジコン型の2部門に、地区予選を突破した32台が挑んだ。山形電波工は同校開催になった東北大会での部門連覇を達成。CSCC(コンピューター・システム・クラブ)部を引っ張つて、菅原さんのマシンは、急加速

きた菅原さんと市川翔一さん、樋口光さんが3年生3人が全国大会の出場権を獲得した。

大会では、直徑15.4cmの鉄板の土俵でロボット力士がぶつかり。強力な磁石で鉄板に張り付くマシンを前面のブレードでいかに剝がすかがポイントとなる。

大会では、直徑15.4cmの鉄板の土俵でロボット力士がぶつかり。強力な磁石で鉄板に張り付くマシンを前面のブレードでいかに剝がすかがポイントとなる。

「指導、支援に結果で返せた」

決勝は強豪・観音寺総合(川島)の選手。一本ずつを取り合い、菅原さんは最終戦で相手の横を取つて攻めたが膠着(こうちやく)状態に。勢いを付けたいたんバックしたところを回り込まれ、惜しくも土俵を割った。

1年時に東北で3位、2年時は東北で優勝しながら、全国では1~2回戦負けだった。「あと数十分で勝てたと思うと悔しいけど、最高の舞台での準優勝は素直にうれしい」と菅原さんは振り返り、「構造や部品について、いろんな情報があり、アドバイスを受けるのもいいけど、最後に決めるのは自分で自分のマシンを目指してほしい」と後輩にエールを送った。

して後方に重心がかかった際にもブレードが浮かないよう工夫したのが特長。操作への集中力を高めて相手を土俵外に押し出すと「ヨツシヤー」と雄たけびが上がる。「気持ちが操作にじかに出る心理戦もある」ためだ。

決勝は強豪・観音寺総合(川島)の選手。一本ずつを取り合い、菅原さんは最終戦で相手の横を取つて攻めたが膠着(こうちやく)状態に。勢いを付けたいたんバックしたところを回り込まれ、惜しくも土俵を割った。

1年時に東北で3位、2年時は東北で優勝しながら、全国では1~2回戦負けだった。「あと数十分で勝てたと思うと悔しいけど、最高の舞台での準優勝は素直にうれしい」と菅原さんは振り返り、「構造や部品について、いろんな情報があり、アドバイスを受けるのもいいけど、最後に決めるのは自分で自分のマシンを目指してほしい」と後輩にエールを送った。